

令和5年度事業報告

(自：令和5年4月1日 至：令和6年3月31日)

公益財団法人ホシザキグリーン財団

令和5年度 公益財団法人ホシザキグリーン財団 事業報告

(自：令和5年4月1日 至：令和6年3月31日)

【概要】

人と自然の調和した自然環境の保全に資することを目的とし、野生動植物の保護繁殖に関する各事業に取り組んだ。実施した主な事業は次のとおりである。

I. 事業部門

1. 野生生物研究所事業 (定款第4条 第1項 第1、3、5号該当事業)

- (1) 調査研究・情報収集発信事業を中心に、宍道湖グリーンパークやふるさと尺の内公園の環境整備の検討のほか、各種の普及啓発活動も含めた財団の幅広い事業を支えるべく運営を行った。
- (2) 調査研究や普及啓発事業に必要な資料（文献・標本等）の収集・保存、それらを活用するための整理など活動基盤を維持する拠点として運営を行った。
- (3) 標本室と図書室の温度や湿度などを管理した。
- (4) 野生生物研究所の実習室を、宍道湖グリーンパークの団体対応や観察会などの室内プログラムの実施場所の一つとして運用した（年間62件、のべ2,825人）。
- (5) 「特定外来生物ナガエツルノゲイトウに関する講習会」の講演会会場として研究所実習室を提供した（1/31）。

2. 宍道湖グリーンパーク事業 (定款第4条 第1項 第2、3号該当事業)

- (1) ビオトープならびに公園施設として宍道湖グリーンパークおよびビオトープ池の適切な管理を行った。
- (2) 園内の維持管理は昆虫や野鳥など野生動植物の生息に配慮して実施し、除草・剪定作業による発生材の一部は小動物のすみかとするべく、木積や腐葉土として利用した。
- (3) 園内のゾーニングプランに基づき、各ゾーンの維持管理を行った。
- (4) 野鳥観察舎や園内に鳥類や昆虫類、植物などの解説を掲示し、フィールド情報を時節にあわせて更新するなどの掲示物の管理を行った。
- (5) 野鳥観察舎において、捕虫網や双眼鏡の貸出、季節の生物のぬりえの配布などのサービスを実施した。
- (6) 野鳥観察舎の企画展コーナーにおいて、企画展以外の期間も時節にあわせた自然に関する展示の切り替えを行った。
- (7) ペンギンミュージアム（約2,000点のペンギングッズを展示）の管理を行った。
- (8) ビオトープ池において、水鳥の飛来時期に合わせた水位調節を実施した。
- (9) 白鳥の採食場として、グリーンパーク周辺農地約10haに地権者の協力を得て水を張り、飛来環境の整備を実施した。

- (10) 野鳥観察舎等で年間 71,382 人の利用者があった（開園より 819,466 人）。
- (11) 団体等の利用申し込みは 106 件（のべ 3,242 人）であり、そのうち野鳥観察などのプログラムやレクチャーを伴う体験活動は年間 55 件（のべ 1,833 人）、施設の見学などの利用が 51 件（のべ 1,409 人）であった。

3. ふるさと尺の内公園事業（定款第 4 条 第 1 項 第 2、3 号該当事業）

- (1) ビオトープならびに公園施設として尺の内公園の適切な管理を行った。
- (2) 園内のさらなる魅力向上として取り組んでいる環境整備について、ランドスケープデザイナーのポール・スミザー氏の監修に基づいた植栽の追加や維持管理を行った
- (3) 園内の樹木は、適切な間隔に保つために剪定や伐採を行い、法面では繁茂したタケを伐採した。これによる発生材の一部は木積にして小動物の生息場所や、チップ化して腐葉土にすることで土壌動物の生息に供した。
- (4) 園内の人工池を活用してオニバスの系統保護のための試験やモニタリング等を継続した。
- (5) アメリカザリガニやキシノウブなど園内にすむ侵略的外来種の回収を行い、在来生物への影響の低減を図った。
- (6) 園内の池に発生する藻類の回収を行うなどして水質の維持を行った。また、定期的に水質測定を実施した。
- (7) 園内でバーク堆肥を作り、植栽場所の肥料やマルチング材として使用した。
- (8) 管理棟の草屋根に植栽した多年草の在来植物を維持する管理をした。
- (9) 季節変化や花の時期に合わせて種名板を更新した。
- (10) 乾燥裸地のビオトープとして整備した隣接地の環境を維持した。
- (11) 公園に隣接する丘陵地に植栽したクヌギや草地環境を維持するための管理を行った。丘陵地の斜面に野鳥の誘因木の機能もある樹木の植栽を行った。また、管理道を含む道路の草刈りや倒木の除去、側溝の清掃などを行った。
- (12) 里山林として維持するため、林内の植生の変化などを継続的に観察し、検討を行った。

4. 調査研究事業（定款第 4 条 第 1 項 第 1、2 号該当事業）

- (1) 職員による自主研究を次の課題で取り組んだ。

〈鳥類研究〉

- ① 鳥類の環境利用特性の研究
- ② マガン・ヒシクイ・コハクチョウの日周行動特性の研究
- ③ 特定鳥類の生息状況調査（しまねレッドデータブック掲載種、県内繁殖情報不足種、注目種等）
- ④ 尺の内公園の鳥類調査
- ⑤ グリーンパークの鳥類調査
- ⑥ 鳥類生息情報の集積
- ⑦ カモ科鳥類カウント調査
- ⑧ 白鳥の採食場の利用状況モニタリング

⑨ ビオトープ池の鳥類調査

〈昆虫類研究〉

- ① ネクイハムシ亜科の進化生物学的研究
- ② 日本産水生甲虫類の分類学的研究
- ③ 島根県の水生昆虫類の保全生物学的研究
- ④ 山陰の海岸に生息する昆虫類や節足動物に関する研究
- ⑤ 島根県産昆虫目録作成のための基礎調査
- ⑥ グリーンパーク昆虫類調査
- ⑦ 尺の内公園の昆虫類調査

〈植物研究〉

- ① 島根県産植物の調査ならびに染色体観察
- ② 特定植物種の産地や形態に関する調査と染色体観察
- ③ 特定植物種の分類学的研究
- ④ オニバスの保護増殖に係る生育調査
- ⑤ 尺の内公園の植物調査
- ⑥ 絶滅危惧植物の生育環境に関する実験調査

〈その他〉

- ① 島根県の淡水・汽水生物の調査
 - ② ビオトープ池の生物調査
 - ③ 島根県の水生生物の遺伝的多様性の調査
- (2) 共同研究として「島根県西部の山地における地表徘徊性昆虫類の垂直分布」「環境 DNA 手法を用いた山陰地方における絶滅危惧種の生息実態の解明」「島根県産シリアゲムシ類の分布調査」「昆虫や水生生物を対象とした生態学的・行動学的研究」の4課題を実施した。
- (3) 調査協力として、環境省が実施しているモニタリングサイト 1000 などの全国的な生物調査（鳥類・淡水魚）や島根県より外来生物（昆虫・クモ）の同定依頼などに協力した。
- (4) 委託研究として「中海周辺におけるガン・ハクチョウ類の採食分布調査」「島根県内の希少トンボ調査」「島根県産水生昆虫類の保全生態学的研究」など6課題を委託して実施した。
- (5) 環境修復プロジェクトとして、「餌料生物としての動物プランクトン（2種）の安定培養の試み」「希少生物（3種）の水槽内繁殖と小型サンショウウオ類の飼育」「マイクロバブルの飼育生物への影響検証」「斐伊川水系支川の水生生物相と既報との比較」の4課題を実施した。
- (6) 研究体制を維持するため6名の客員研究員を委嘱した。
- (7) 財団の研究報告書や環境修復プロジェクト報告書をはじめ、他団体発行誌に36題の研究論文や短報などを発表した。
- (8) 学会や研修会等で16題の発表を行った。
- (9) 「ホンザキグリーン財団研究報告 第27号」を発行した(論文23題、短報9題、資料5題; 324頁)。
- (10) 「ホンザキグリーン財団研究報告 特別号」を発行した。

- ・第 33 号 宍道湖グリーンパークの樹木調査 (1) (76 頁)
- (11) 「2023 年度ホシザキグリーン財団環境修復プロジェクト報告書」を発行した (報告 7 題 ; 71 頁)。

5. 普及啓発事業 (定款第 4 条 第 1 項 第 4 号該当事業)

(1) 宍道湖グリーンパークで以下の企画を実施した。

①自然観察会やイベント

- ・定例自然観察会を 11 回開催した。
- ・日曜の午後に短時間の自然ガイド「グリーンパーク生きものちょこっとガイド」を 36 回実施した。
- ・春の大型連休のイベントとして、「宍道湖グリーンパークで鳥たちがかくれんぼ!?!」や「園内おさんぼクイズ」などを実施した (5/3-7)。
- ・宍道湖グリーンパーク開園記念月関連企画として、「グリーンパーク生きものスタンプフェスタ (オリジナルスタンプ帳プレゼント)」を実施した (6/1-30)。
- ・「宍道湖グリーンパークでマガン・コハクチョウの初渡来日を予想しよう! 2023 (オリジナルクリアファイルプレゼント)」企画を実施した (8/12-9/30)。
- ・宍道湖・中海 ラムサール条約登録月イベントとして「グリーンパークでオリジナルカレンダーを作ろう」を実施した (11/23, 25, 26)。
- ・お正月の先着プレゼント (オリジナルマスキングテープ) 企画を実施した (1/1-8)。
- ・世界湿地の日に因んだ工作企画として、「2 月 2 日は世界湿地の日 宍道湖のめぐみで工作を楽しもう」を実施した (2/10, 11, 12)。
- ・ハロウィン、クリスマス、お正月の時期に合わせて「宍道湖グリーンパークでスペシャルキンちゃんぬりえをゲットしよう!! (期間限定ぬりえ配布)」企画を実施した (10/16-30, 12/11-25, 1/1-15)。
- ・宍道湖グリーンパークへの来園促進のため、宍道湖自然館の来館者を対象としたデジタルスタンプラリーを開催した。スタンプ 2 個で自然館入館券進呈 (抽選)、4 個でオリジナルぬりえをプレゼントし、より直接的に来園促進をおこなうとともに、自然館への再来館も促すものとした (2/9-3/8)。

②企画展

- ・野鳥観察舎で夏の企画展「甲虫を調べよう 甲虫学最前線」を開催した (7/12-9/4)。
- ・夏休みの自由研究などに利用できる「甲虫研究ノート (B5) と下敷き」のセットを各日数量限定で配布した。 (7/12-9/4)。
- ・甲虫の研究について研究員が解説するミニ講演会を開催した (7/17, 8/11)。
- ・野鳥観察舎で冬の企画展「ロゼット～春を待つ冬の植物～」を開催した (11/22-1/15)。
- ・ロゼットの型のスタンプ 16 種類を自由に押して、オリジナルポストカードにできるハガキを配布した。
- ・「ロゼットステンシルでオリジナルエコバッグをつくろう!」を開催した (12/9-10、

12/16-17)。

③主な季節展示

- ・野鳥観察舎に企画展がない時期にも、以下のまとまった展示更新を実施した。
 - 「水辺の宝石カワセミとそのなかま」(5/31-7/10)
 - 「宍道湖周辺のガン・ハクチョウたち」(9/6-11/20)
 - 「世界湿地の日」(1/17-3/11)
 - 「春を彩る生きものたち」(3/13-5/27)

④各種協力

- ・施設間の相互協力として、米子水鳥公園と宍道湖・中海 ラムサール条約登録月に合わせて「スタンプをおして、カンバッジをもらおう！」を実施した(10/22-11/20) ほか、三瓶自然館とは「相互施設 PR コーナー」の設置を行った(2/28-5/26)。
- ・宍道湖沿線ファミリー月間 2023 スタンプラリーに協力した(10/1-31)。
- ・令和5年度愛鳥週間用ポスター図案コンクール入賞作品の展示会場として野鳥観察舎にコーナーを設けた(4/26-5/16)。
- ・宍道湖水環境改善協議会「宍道湖絵画コンクール」作品の展示会場として野鳥観察舎にコーナーを設けた(1/17-3/11)。

⑤その他

- ・グリーンパーク利用者(主に団体)の申し込みに応じて観察プログラム等の対応をした(年間55回、のべ1,833人)。
- ・パークボランティア(15名)を登録し、観察会の企画実施のほか、イベントや園内の作業補助などに関わった。
- ・パークボランティアの連絡誌を発行(52-55号)した。

(2) ふるさと尺の内公園で以下の企画を実施した。

①自然観察会やイベント

- ・定例自然観察会を12回開催した。
- ・地元小学校等の希望に応じて自然観察等の対応をした(年間4回、102人)。

(3) 野生生物研究所関係で以下の企画を実施した。

①普及用の発行物等

- ・ニュースレター「HOWP」を発行(70-73号)し、自然情報等の発信に努めた。

②研究報告会の開催

- ・ホシザキ野生生物研究所研究報告会を開催した(2/6, 12; 出雲市民会館)。

(4) ホームページ

- ・ホームページならびにソーシャルネットワークワーキングサービスの運用によって、自然情報やイベント開催の発信を行った。

(5) その他

- ・宍道湖グリーンパーク&ゴビウスラムサール探偵団としてプログラムを実施(6/10, 9/2, 11/3-4, 12/2)したほか、活動内容を紹介する冊子を発行した。
- ・ラムサール探偵団参加者に呼びかけて令和5年度こどもラムサール交流会に協力した

(8/26-27)。

- ・出雲市生涯学習講座「トキと野鳥の生息環境を学ぶ」バスツアー（9/21）や自然環境学習「子ども探検スクール」（11/18）、「ラムサール条約湿地宍道湖・中海水鳥観察会」（12/16）において宍道湖グリーンパーク等でガイドを行った。
- ・学校や地方公共団体等が主催する観察会や研修会等に講師を派遣した（年間5回）。

6. 情報収集発信事業（定款第4条 第1項 第1、4、5号該当事業）

- （1）文献、標本、写真、映像などの資料収集・整理につとめた。
 - ・文献は、購入488冊、寄贈・交換1,054冊、計1,542冊を取得した。
- （2）鳥類等の観察情報について職員の記録や宍道湖グリーンパークに寄せられる情報をデータベースに入力した。

7. 地方公共団体からの受託事業（定款第4条 第1項 1、3、4号該当事業）

- （1）島根県立宍道湖自然館管理運営業務（指定管理、主管課：島根県水産課）

宍道湖自然館ゴビウスの管理運営を行い、普及啓発や調査研究などの各種事業を実施した。
詳細は別資料（宍道湖自然館館報 No. 23）。
- （2）自然環境調査研究業務（委託：出雲市）

出雲市内のため池（平田地域の15カ所）の水生動植物の調査を行ったほか、5カ所での環境DNA分析を実施した。小冊子「平田地区のため池の生きものたち～ため池の自然環境調査と環境DNA分析～」(28頁)を作成した。
- （3）ガン・カモ類生息調査業務（委託：島根県森林整備課）

宍道湖、中海、神西湖、高津川、蟠竜湖でカモ科鳥類の個体数調査を実施した（1/14）。
- （4）しまねレッドデータブック改訂現地調査業務（委託：島根県自然環境課）

しまねレッドデータブックの改訂のため、委託された分類群について、改訂委員と協議しながら、野外調査の実施や調整を行った。

II. 管理部門

1. 監査

令和5年5月1日に、高橋良昌監事、中村真実子監事により令和4年度一般会計及び業務の監査を受け、会計および業務とも適正と認められた。

2. 理事会

令和5年5月19日 第1回理事会

- ・令和4年度事業報告（案）の承認について
- ・令和4年度決算報告書（案）の承認について
- ・定時評議員会開催および開催日時について

令和5年6月6日 第2回理事会

- ・令和4年度事業報告について報告
- ・令和4年度決算報告について報告

令和5年12月21日 第3回理事会

- ・坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社B種類株主総会の議案に対し同意することについて

令和6年3月1日 第4回理事会

- ・令和5年度収支予算変更の承認について
- ・令和6年度事業計画、収支予算の承認について

令和6年3月15日 第5回理事会

- ・ホシザキ株式会社第78期株主総会議案の賛否について
- ・坂本ドネイション・ファウンデーション株式会社の株主総会議案の賛否について

3. 評議員会

令和5年4月14日 臨時評議員会(第1回)

- ・評議員の辞任とその補充選任について

令和5年6月6日 定時評議員会(第2回)

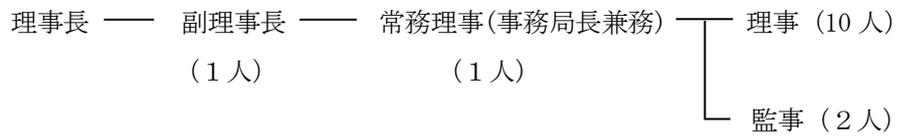
- ・令和4年度事業報告について
- ・令和4年度決算報告について

【組織】

理事長以下理事 12 名、監事 2 名、評議員 8 名、職員 35 名で管理運営にあたった。

(令和 6 年 3 月 31 日現在)

(1) 役員



(2) 評議員

評議員 (8人)

(3) 職員

